

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

第 117 号
(総会特集号)

平成 28 年 7 月発行

会 報

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目10番1号
(全国たばこビル内6階)
電話 (03) 6721-5710
F A X (03) 6721-5711
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

ご挨拶

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

会 長 竹 内 ふ き 子

(東京都立城北特別支援学校 P T A 会長)

昨年度より引き続き会長を務めさせていただきます。

東京都立城北特別支援学校 P T A 会長の竹内ふき子です。どうぞよろしくお願いいたします。

新年度を迎え、P T A 組織も新体制でのスタートをきった学校も多いのではないのでしょうか。今年度はどんな P T A 活動を予定していますか？

皆さんの笑顔が浮かびますね。一年頑張っていきましょう。

P T A 活動については、昨年菊地桃子さんが一億総活躍国民会議で発言したことで注目を浴びました。



「P T A は任意団体であり、活動は強制であってはいけません。働いている親にとっては負担である。全員がやらなければいけない状態になっていることが問題ではないのでしょうか。」という言葉でした。皆さんはこの言葉をどう受け止めましたか？ 反響が多い中で、私自信、特別支援学校の P T A 活動とはどうあるべきか、どう活動していくことが必要なのかを考える良いきっかけになりました。

本連合会の保護者の皆さんは、仕事を持っているか否か、家族環境、子どもの障害の違い、地域環境、これだけの項目でも大変さの重圧を比べることはできません。時間の有る人がやれば良いのだと一概には言えないでしょう。

特別支援学校に通う 12 年間の子ども達の成長には、学校での教育・取り組みだけでは充分ではありません。家庭でも、学校と同じ目標と意を持って取り組むことが子ども達にとってとても大切なことです。担任の先生と保護者がしっかり手を繋ぐ。それは学校と P T A がしっかりと連携がとれていることと同じではないのでしょうか。両輪や船のオールに例えたりしますが、どちらか片方が頑張るだけではまっすぐ進みません。充分ではないのです。

私たちの役割は子ども達の成長と育成にとっても大きな役割を持っています。P T A の取り組みに自信を持って、そして自慢して、今年度の活動の力に変えましょう。

本連合会の取り組みは皆さんがそれぞれの学校での取り組みがあってこそその活動です。215 校の皆さんと繋がりを感じ、活動の力になる取り組みを今年も心掛けていきたいと思えます。沢山の情報の発信を皆さんへそして皆さんからも届きますように、お待ちしております。

今年度もどうぞよろしくお願い致します。

平成 28 年度

第 59 回全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会総会および P T A ・校長会合同研究大会「宮城大会」

期 日：平成 28 年 8 月 23 日(火)～24 日(水)

会 場：ホテルメトロポリタン仙台 (宮城県仙台市青葉区中央 1-1-1)

今年度、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会（略称：全肢長会）の会長を務めることになりました東京都立鹿本学園校長の田村康二郎です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

全肢P連と全肢長会の絆

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会（全肢P連）様と私共の会（略称：全肢長会）は、共に昭和33年（1958年）に「全国肢体不自由児養護学校PTA連合会」と「全国養護学校長会肢体不自由児教育部会（翌年に全国肢体不自由養護学校長会に改組）」として生まれました。発足当初から固い絆で結ばれた友好協力団体同士です。この時から児童生徒を中心にPTA（保護者会員と教職員会員）と校長に代表される学校組織が囲み支えるリングとなって二人三脚で歩んできたのです。他種別の特別支援学校長会との連携の形とは若干異なり、今も夏の大会を「全肢P連合会総会およびPTA・校長会合同研究大会」と会の名称に両者が名を連ねていることは、その連携が実を結び支え合ってきたことへの敬意と誇りでもあります。（本節は、両会が共同して編纂した平成17年発行の「全肢P連五十年史」を参考しました。）

双方の会長に託されたバトン

肢体不自由教育充実の歴史は、全肢P連に参画した保護者と教職員が力を合わせて得てきた成果の証そのものです。このバトンを次の走者に渡すまでの間、全肢P連の竹内会長と全肢長会長がしっかりと手を携えて進んで参ります。

歴史を振り返り今に繋ぐ

遡る事8年程前、私は初めての校長辞令を頂いた際、校長としてPTAとどのように関わっていくことが望ましいかを考えるために、まずPTAの歴史を紐解いてみました。その時のメモを引き出してみます。関係団体のホームページや教育研究所等のホームページや関係書籍には更に詳しく紹介されていますが、概要は以下の通りです。（以下種々の資料を参考に要約しています。）

〈PTA活動の始まり〉 PTA事始めは何と今から約百二十年前の1897（明治30）年のアメリカ合衆国です。創始者であるバーニーさんは、生まれて間もない我が子の無垢な寝顔を見つめながら、生命の尊さとともに親の心に湧き出す厳かな責任感を自覚し強い感動を覚えました。そして尊い生命を守り、このあどけない幼子を健やかに育て、望ましい環境に迎え入れるために「母の会」を作る決心しました。

〈全国母親議会〉 1897年、友人のハーストさんの協力を得てワシントンで「全国母親議会」を発足させました。バーニーさんは、機関紙の中で「全国母親議会は、信条、人種、身分の差別なく、全ての親と子と家庭の為にあります。舞台は世界であり、組織は全人類なのです。」と述べています。

〈全国保護者教師議会から全国PTA連合会へ〉 活動を続ける中で、子供の全人格を健やかに育てるには、母親だけの力では限界があることを悟り、父親と教師にも運動への参加を広く呼びかけていきました。その後、父親や教師も加えた「全国保護者教師議会」、更に「全国PTA連合会」へと発展していきました。これがPTAの原型なのです。

〈教育環境の充実を目指して…広がるPTA活動〉 こうした活動を通じて「幼稚園設立」「児童労働法制定」「保健サービス実施」「給食実施」「予防接種義務化」が制度化するなどの成果を上げていったそうです。やがてアメリカ合衆国から他の国にも「教員と父母の輪」が広がっていきました。創始者である母親達の思いが連綿と引き継がれ、様々な経過を経て今に至っている訳です。アメリカ合衆国では今もPTA等の保護者が関わる諸活動が活発です。各校では指導へのサポートや環境改善、親睦活動を行うとともに「スクールバスの安全確保」「テレビ放送に関する年齢制限」「給食の栄養基準改定」等の要望に関する活動にも力を注いでいます。

〈日本に根付いたPTA活動〉 日本においても戦前から保護者会・後援会型の学校支援組織がありましたが、戦後に改めてアメリカ合衆国型のPTA活動がもたらされ、教育の復興期に国内に広がっていきました。そして特別支援学校においては、その障害特性や専門教育の必要性を共有しつつ、会員同士が支え合い、教育環境の充実を目指す場として、多くの方々の共感を得ながら、今日に繋がってきています。

次の一歩へ これからの歩み

こうして振り返ってみますと、お国柄や障害の有無を越えて、親と教師の願いは共通しています。全ての子供達の為に「良い育成環境を培い、健やかに成長してほしい」との率直な願いです。日本では、これからの数年について、障害のある子供達を囲む環境が大きく充実していく転換点を迎えるのではと大きな期待が寄せられています。今こそ、PTAの皆さんと学校がしっかりと手を取り合い、日本の未来を託す子供達をしっかりと育てていきたいと思います。

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
会長 田村康二郎
(東京都立鹿本学園校長)



—新ブロック長のご紹介—

私は平成 28 年度全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会北海道・東北ブロック長を拝命しました札幌市立北翔養護学校 P T A 会長の吉田美知代と申します。

子どもは札幌市立北翔養護学校の中学部にお世話になっております。この学校は平成 16 年より中高の重度重複肢体不自由の養護学校として設置されましたが、今年度小学部が設置され、新たな校内体制の中、より活発な P T A 活動が求められております。

大きな重責で胸がいっぱいですが、関係諸機関の皆様にご指導・ご助言をいただきながら、この一年精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

平成 28 年度関肢 P 連会長になりました高橋優子と申します。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

昨年度神奈川大会を成功に導かれました田中会長の後任ということで大変身の引き締まる思いでおります。これまでの関肢 P 連の皆様のご実績・ご活躍を受け継ぎ、また、あらたに皆様のご協力も受けながら、大変至らないところもある会長ではあると思いますが、一年間、精一杯頑張りたいと思っております。どうぞ皆様宜しくお願い致します

平成 28 年度中部ブロック長を務めさせていただきます、静岡県立西部特別支援学校 P T A 会長の大庭秀一です。

本校の会長は本年度で 3 年目になりますが、全肢 P 連は初めてのなのでとても責任のある立場として、身の引き締まる思いです。竹内会長の足を引っ張らないよう、各ブロック長の皆様と協力し、支えていただきながら、務めて行きたいと思っております。全国の会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

近畿ブロック長となりました大阪府立藤井寺支援学校 P T A 会長、梅原佐保子と申します。総会の挨拶でも述べさせていただきましたが、各支援、養護学校では人数もシステムも違い、登校から授業、医療的ケアの対応、放課後、長期休暇の過ごし方も様々です。ですが、皆、ハンディを抱えた子どもたちが毎日楽しく笑顔で充実した日々を過ごせ、それが卒後も続くようにと、私たち保護者は自問自答を繰り返しながら過ごしています。この連合会のつながりをいい機会にたくさんの方の声に耳を傾け、受け取り、交流をもって単 P に持ち帰り、子ども達に、そしてわが子へと生かされることを望んでおります。一年間よろしくお願いいたします。

今年度、中国・四国地区ブロック長になりました島根県立松江清心養護学校 P T A 会長の青山久美子です。

本校は自然に囲まれた中にあり、近くには国宝松江城や宍道湖があります。子供達も明るくのびのびと楽しく学んでいて、子供達の笑顔がとても輝いています。ご縁の国島根から中四国、そして全国へと障害のある子供達そして P T A の情報を繋げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

北海道・東北ブロック長 **吉田 美知代**
(北海道札幌市立北翔養護学校 P T A 会長)



関東・甲信越ブロック長 **高橋 優子**
(埼玉県立和光特別支援学校 P T A 会長)



中部ブロック長 **大庭 秀一**
(静岡県立西部特別支援学校 P T A 会長)



近畿ブロック長 **梅原 佐保子**
(大阪府立藤井寺支援学校 P T A 会長)



中国・四国ブロック長 **青山 久美子**
(島根県立松江清心養護学校 P T A 会長)



まず初めに、4月に発生しました熊本地震では、支援学校を含む日本全国の皆様、また全世界のご支援に心から感謝をいたします。まだまだ復興には遠い道のりですが、皆様のお力を借り、少しでも早く元の姿になることを祈るばかりです。

この度、図らずも九州地区の理事に就任することになりました。一昨年度、娘が松橋支援学校に入学すると同時に青天の霹靂で第58回全肢P連の実行委員長に任命され、全国の理事会に参加することになり、今年度で3期目となります。おそらく、地方の会員が複数期に渡り理事会に参加することは、PTAの性格上、稀なことでしょう。ただ、私自身偶然とは云え、そのような立場になったことで、全国会長の竹内さんを含む執行部の皆さんの想いを、紙面ではなく、直接、見聞出来る機会が与えられたのは大きな収穫です。子供たちの将来に亘る幸せを願う心からの言葉に、地方組織としてどう連携できるかを模索したいと思います。

「人は石垣、人は城」今回の地震で崩れた熊本城の石垣の中で櫓を支え崩れなかった1本の石垣のように、しっかりした理念のある組織は崩れようがありません。PTAへの在籍は限られた期間であります。障害のある子供の親として終年、全国の皆さんと共に考えていければ幸いです。今期も1年間よろしく願いいたします。

九州ブロック長 藤田 靖司
(熊本県立松橋支援学校PTA会長)



—新規加入校のご紹介—

山口県立下関総合支援学校

「花と緑の美しい学びの丘から」

この度、全肢P連のお仲間に加えていただいた、山口県立下関総合支援学校です。

本校は、昭和54年4月1日に山口県立下関養護学校として設立され、平成20年度に「山口県立下関総合支援学校」と校名を改め児童生徒のための特別支援教育に積極的に取り組んでいます。

教育目標「一人ひとりがもてる力と自分らしさを発揮し、生き生きと活動できる子どもを育てる」の着実な実行を目指して、児童生徒の自立と社会参加に向けた教育の充実に、PTAとしても全面的に協力しながら取り組んでいます。

現在の児童生徒数は210名、教職員数は非常勤講師等も含めて138名、山口県内では2番目に大きな特別支援学校です。通学バス（大型6台）利用者が75%、その他に保護者の送迎や電車等を自分で利用する生徒などがいます。また、高等部には産業科があり、技能検定へのチャレンジにも取り組んでいます。更に、今年度のコミュニティスクール導入に向けて準備も進めており、地域の応援やネットワークを一層拡充し、子どもたちへのサポートを充実させたいと考えています。

近年は、肢体不自由・重度重複・医療的ケアの児童生徒も多くなり、PTA会員のニーズの高まりから、今回全肢P連への入会が叶い、心より感謝申し上げます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

福岡県立大宰府特別支援学校

「笑顔あふれる学校をめざして」

本校は、肢体不自由教育部門と知的障害教育部門を併置した開校5年目を迎える学校です。福岡県の都市圏南部に位置し、本年度5月1日時点で、児童生徒数454名、学級数93学級、通学バス14台となり、県内最大規模となっています。4年間で児童生徒数がほぼ倍増していることもあり、学校施設の活用にも工夫を重ねながら、「一人一人の可能性を最大限に伸ばし、光り輝く存在として社会を生き抜く力を育成する」という学校教育目標の実現のために、教職員一同日々奮闘しているところです。

肢体不自由教育部門では、6月2日に「団結～みんなで力を出しきり輝こう～」をテーマに運動体育発表会を行いました。小学部から高等部までの子どもたちが一生懸命に身体を動かして、ボールを転がしたりダンスを踊ったりして演技を発表しました。子どもたちの真剣な眼差しや喜びの笑顔からは、日々の学習での頑張りが伝わってきました。

PTA活動では、4つの専門部（ボランティア部、広報部、厚生部、研修部）を発足させ、保護者全員がいずれかに所属しながら活動しています。校内清掃活動やPTA新聞作り、バザーや講演会の企画・運営等の活動に取り組んでいます。

これからも保護者、教職員が一丸となり、子どもたちの笑顔があふれる学校をめざして頑張っていきたいと思っています。

